

(題字：楊湖舟先生書)

町民福祉バス運行開始



町民の皆さんが長い間強く要望しておりました「福祉バス」が、このたびお目見えし、去る9月13日から運行を開始しました。

当日、運行に先立ち、午前9時から役場正面玄関前では、新装なった「福祉バス」(三菱ふそう定員42名)を前に運行開始式が行なわれ、竹内町長からバス運行についての挨拶のあと、運行従事職員に「安全運転をお願いします」とバスの鍵が渡されました。

女子職員から贈られた花束を胸に運転従事者がバスに乗り組み、エンジンを始動すると、竹内町長、深作議長、大谷高齢者クラブ連合会長のテープカットが行なわれ、大きな拍手の中を出発しました。

乗り初めは、この日開催された町主催の敬老会に参加されたお年寄りの方々で、夏海神社地区に向ったバスは一日中会場の茨交ビィチパレスを起点に送迎に活躍しました。

これからは町主催による諸行事等に幅広く利用されることとなります。

長寿を祝う敬老会

9月15日は「敬老の日」また、この日から一週間は「老人福祉週間」です。

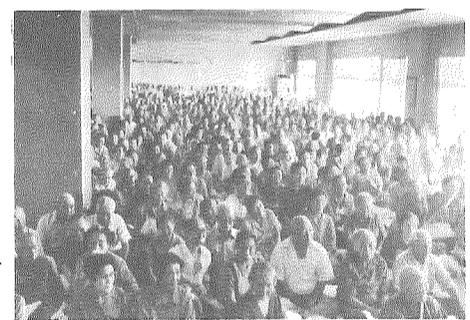
お年寄りの方は、これまで永年にわたって社会に貢献してこられました。

長寿を心からお祝いいたします。

町では去る9月13日、茨交ビィチパレスに70才以上の方一、五四二名をお招きして敬老会を開き、皆さんの長寿をお祝いました。

当日は秋晴れに恵まれ開会の10時には会場が満員となり、竹内町長よりお祝いのことばと、出席された高令者小川純一郎さん夫妻に記念品の贈呈が行われ、次に深作町議会議長、大谷高齢者クラブ連合会長より祝辞をいただき式を終りました。

続いて演芸に入り、東京九・京平二両人の漫才、つづいて二葉百合歌さんの浪曲にみなさん聞きほれていました。



そのあとの老人芸能発表会では、各老人クラブの皆さんの民謡、舞踊、詩吟、歌謡曲等の熱演をお楽しみいただいたり、書道、絵画等の老人作品を鑑賞、楽しい一日を過ごしていました。

敬老の日にお祝いの訪問

大洗ロータリークラブ(石井藤吉郎会長、会員42名)では、去る9月15日「敬老の日」に、長寿のお祝いに高令者宅を訪問しました。

これは、当クラブが毎年恒例として行なっている事業で、長い間社会に貢献してきたお年寄りのご労苦をねぎらい、更に健康で長生きしていただくため、座布団と座椅子のお祝い品をお贈りするもので、この日石井会長、土子社会奉仕委員長、佐藤広報委員長が長寿者3名を訪問しました。

訪問した長寿者の方は大変喜ばれ、「一日の定めた仕事を確実に消化する。読書等で頭を常に使っ



等長寿の秘訣を披露してくれました。いつまでもお元気で長生きして下さい。

- 出演者出品者は次の方々です。
- ◎老人芸能発表会出演者(敬称略)
- 西野とき 信田とめ 高崎彦重
 小沼はる 渡辺初江 井川英之
 深作七之助 松山みつ 小泉新造
 大内千代
- ◎老人作品展出品者(敬称略)
- 菅谷留五郎 稲野辺喜平 加部東欣二
 関根 厚 内山光正 松山誠次
 寺家龜喜代 松井愛子 大貫ふく
 関根 敬 石井弘道 川上つま
 天野満江 石田いと 瀧ヶ崎東吉
 瀧ヶ崎千代 佐藤 新 佐久間ちよ

長寿者のみなさん おめでとうございませう

昭和五十五年度大洗長寿番付

大洗町在住の八八才(米寿)以上の方を相撲の番付表にならって「長寿者番付表」をつくってみました。(敬称略)

昭和55年11月15日現在

東

西

横綱三目小松崎はな九才	横綱三目久米あさ九才
張鶴藏前佐藤吉太郎九才	張鶴藏中宿深作あさ九才
同 鑿飛田はる九才	同 新川崎あき九才
大関舟渡両沢あき九才	大関仲町小松崎阿さ九才
同 仲町小林きく九才	同 永町眞田はつ九才
張鶴藏前松山助七九才	張鶴藏祝町小川純一郎九才
同 共助小室庸行九才	同 共助石崎よね九才
同 関脇祝町小川とく九才	同 関脇鑿鑿鶴田くら九才
同 菅田口よし九才	同 報国米川やす九才
同 角一小野瀬なつ九才	同 角一小野瀬たま九才
同 報国菅原ます九才	同 鑿鑿鈴木三郎九才
小結鑿鑿平沼はる九才	小結鑿鑿石井ふゆ九才
同 祝町大貫豊九才	同 前頭角一小野瀬むな九才
前頭鑿鑿清水くま九才	前頭角一川上彦次郎九才
同 新町環キミ九才	同 鑿鑿橋本よね九才
同 鑿鑿鈴木ふよ九才	同 鑿鑿鈴木とき九才
同 鑿鑿大貫ます九才	同 十両鑿鑿坂本かつ九才
同 十両中宿菅谷かつ九才	同 永町青山マツ九才
同 寺釜田山よう九才	同 神野小神野まつ九才
同 神山大貫てい九才	同 古宿大谷みよ九才
同 鑿鑿関根きく九才	同 金野小泉新蔵九才
同 鑿鑿三代とめ九才	同 神野千森いそ九才
同 永町永田とめ九才	同 二目坂本かね九才
同 古宿杉山りん九才	同 神野小沼志け九才
同 神野川又さよ九才	同 永町小泉きし九才

(として保存しましょう)

※ 展示部門 11月2日～4日 (会場＝大洗町役場・消防署・磯浜公民館)

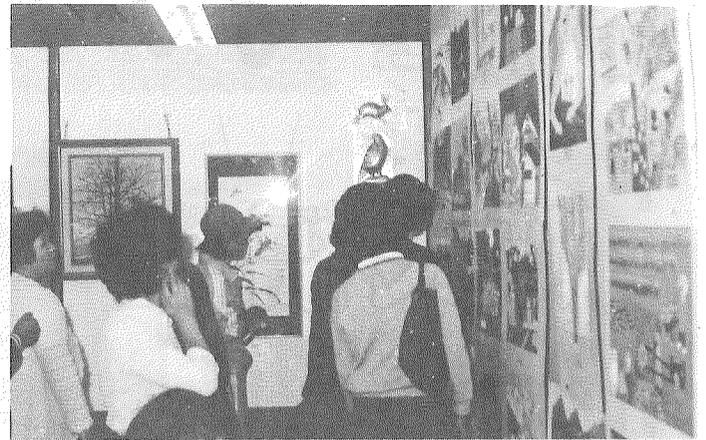
Table with 6 columns: 部 (Category), 申込 (Application), 大きさ・形態 (Size/Form), 種列 (Type), 点数 (Number of items), 搬入 (Loading), 搬出 (Unloading). Rows include 書道 (Calligraphy), 写真 (Photography), 美術 (Art), 詩歌 (Poetry), 俳句 (Haikai), and 生花 (Ikebana).

※ 発表部門 10月18日～11月16日 (会場＝磯小体育館・一中体育館・東光台地区公民館)

Table with 5 columns: 部 (Category), 期間 (Period), 会場 (Venue), 申込 (Application), その他 (Other). Rows include 音楽 (Music), 日本舞踊 (Japanese Dance), 吟詠詩舞 (Recitation/Poetry/Dance), 民謡舞 (Folk Song Dance), and 茶道 (Tea Ceremony).

第6回

大洗町芸術文化祭



日頃の町民の芸術文化活動の成果を展示、発表し、鑑賞する機会を提供することによって、文化の向上発展と豊かな町民性の高揚をはかるため、左記の通り開催いたします。

大洗町社会福祉協議会善意銀行に、左記の方々より寄付がよせられております。善意銀行によせられるご寄付は、恵まれない、おとしより、し体不自由児者、生活困窮者の方々等の援助と社会福祉のため、生かしていただきたいと云う趣旨によるものです。

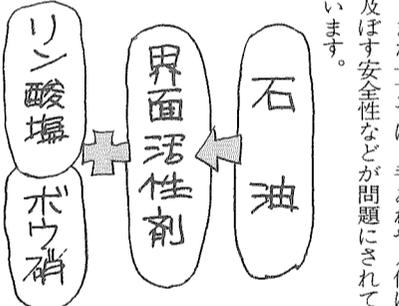
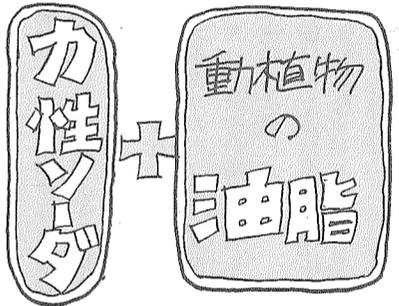
大洗町社会福祉協議会善意銀行 ランチア活動を通して、幸せで、明るい豊かな地域福祉の推進に努力いたしております。今後とも町民の皆様方のご理解とご協力をお願い致します。

善意の寄附

ありがとうございます

大洗の海と川をきれいに するよう心がけましょう

合成洗剤の使用をやめて、粉石けんを つかいましょう。



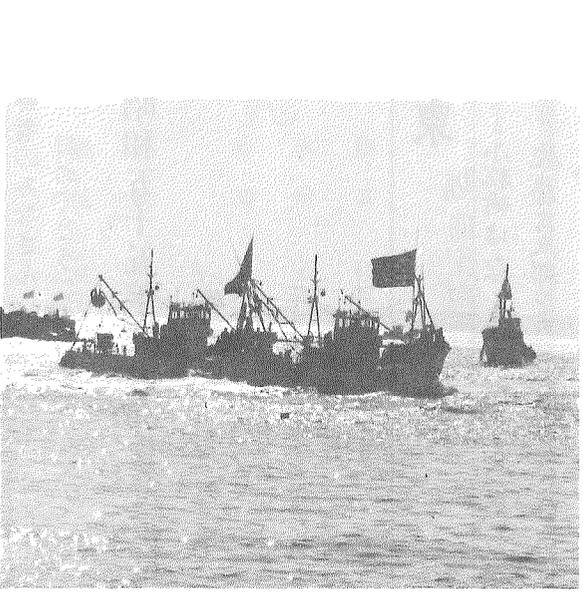
粉石けんとは…… ヤシ油、牛脂、米ぬか油など動物からとれる天然の油脂を原料とし、これにカチオンソープなどを加えてつくりまします。

- 郡 司 善 (成田町)
郡 司 三 善 (成田町)
石 崎 七 義 (成田町)
石 崎 正 一 (成田町)
後 藤 朝 寿 (大貫町)
江 橋 朝 富 (大貫町)
郡 司 安 太郎 (磯浜町)
石 川 信 男 (磯浜町)
栗 原 保 男 (磯浜町)

水質監視員決まる このたび町では、瀬沼及び瀬沼の方々に水質監視員を委嘱いたしました。(敬称略)

寄附 ストロポ 1台 (ナショナルオートストロポ)
大洗町磯浜町二四二番地
パール写真店
稲沢 利 貞 殿
右記物品を広報活動の一助にして頂きたいと、町広報公聴室に寄附されたものです。

町・県民税 第三期の納期は (10月31日迄)です
納税いろはかるた ④



▲ 大洗港から出航する漁船

〔町の歴史シリーズ〕⑨ 大洗のいまとむかし まほろしの祭
町内には、鎮守の祭りを始め、いろいろな祭礼がある。そのどれもが、土地と深く結びついていたわけを持っており、一つとして同じものはなく、特色のあるものである。しかし、神社や寺院などに直接関係する祭礼以外は、時代による生活の変化もあって、少しずつ形を変えている。それが、素朴であればあるほど、変化は早く、二度と見られない、参加できなくなった祭礼もあった。

ワッショイワッショイ

30年ぶりの子供みこしに
夏海のまつり賑わう



町内をねり歩く子供みこし

去る8月19・20日の両日、夏海

の宿並は鎮守の秋まつりで大変な賑わいを見せました。あいにく小雨まじりで天気には恵まれませんでした。これを吹き飛ばすかのように、今年は何年にもない人出があり、華やいた雰囲気と活気に充ちあふれていました。この盛り上りの理由は何んといっても、30年ぶりの子供神輿の練り歩きであり、このきっかけをつくられたのが、夏海小学校で用務員を務められている小野瀬正雄(75)さん(松川共励)と云えましよう。

麦作功労者として

菊池邦彦さん(新町)
県知事賞を受ける



去る8月28日に、茨城県主催による麦作振興推進大会が関係者約150名を集め、ホテル大洗荘で盛大に行なわれました。

これは麦生産の増加にともない、今後の需給の動向に応じた規模拡大と良質麦の計画的生産を図るために行なわれたもので、席上、菊池邦彦さん(磯浜町332)が各賞受賞者の先頭をきって、県知事賞を受賞され、表彰式終了後受賞者を代表して受賞事例の発表を行ないました。

菊池さんはこの発表のなかで、平和時の現在、「米の生産過剰、食糧赤字・穀物生産に対する国庫負担の増大」などと、米麦農家に対する風当りは強いようだが、いざという非常の場合、国の食糧自給体制は絶対に必要である。また、平和時の現在にあってもこの生活を維持する上で、緑地帯や山林、農地の保存は太平洋の存在と同じく不可欠なものである。などいくつかの例を具体的に示し、農業という職業を通して地域社会や国家に貢献しているというプライドをもって仕事に生きがいを感じていると結ばれていました。

精農家菊池さんのこれからの一層のご活躍を期待します。

小野瀬さんは小学校運動会用の飾り物として神輿づくりの依頼相談を受け、これを心よく引き受けそれからは休日を利用して3台のみこしづくりに取りかかりました。勿論、材料費等一切の経費は自弁で、相当日数をかけ一台一台精魂こめて作られた神輿は銅板で葺かれ、手作りの味が滲みだした立派な出来映で、うち2台は夏海小学校に、1台は地元松川子供会にそれぞれ寄附されました。

この話を聞いた夏海子供会(大川啓茂会長)では早速、これを借り受け30年ぶりに子供みこしを復活させようと、深澤孝さん(古宿、建材業)らが中心になって働きかけ実現の運びとなったものです。

祭り当日、3台の新しい神輿は可愛い小学生たちに担がれ、集まった人々の暖かい目に見送られて大人神輿と一緒に元よく各常会を練り歩きました。

柔道県大会で優勝

全国青年大会へ出場

戦績

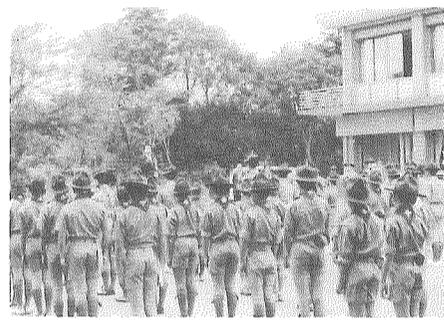
去る、8月24日(日)茨城県青年大会兼全国青年大会予選会が、水戸市の県立スポーツセンターで行なわれ、柔道の部で当町チームが東茨城郡代表として出場し、強豪を連破して、みごと優勝し、来る11月6日からの全国青年大会(東京・講道館)に県代表で出場することにになりました。

- 監督 佐藤 遼弘(明神町)
- 選手(軽量) 石川 克正(新町)
- “(中量) 檜山 富雄(新町)
- “(中量) 小沼 富一(丁目)
- “(重量) 薮 靖夫(祝町)
- “(重量) 関根 政起(金沢町)

ボーイスカウト野営大会
盛大に開催される

“海と友情”をテーマに、ボーイスカウト茨城県連盟第2地区野営大会(ボーイスカウト茨城県連盟第2地区協議会主催、ボーイスカウト茨城県連盟・大洗町後援)

が、去る8月22日から25日まで、願入寺境内で盛大に開催されました。地元茨城県第1団をはじめ、水戸1、2、4、5、6、7団、勝田1団、那珂1団の9団170人の参加の元、野営大会が行なわれ、当町からは東茨城第1団8名のスカウトと坂本信氏、ほか2名のリーダーが参加しました。



野営大会は、救急法、水泳訓練、水泳救助法等の訓練の外に野営調理台の作成コンテストが行なわれ、24日には町内をパレード、野営大会のテーマ「海と友情」、モットー「そなえよつねに」、スローガン「日々の善行」を町民に呼びかけていました。

サイクリスト670人が参加

関東甲信越サイクリング・ラリー県大会

去る9月14日、サイクリング・ラリーに、本県をはじめ東京、神奈川、埼玉、新潟、長野の各都県から670人のサイクリストが大集合。これは、第16回関東甲信越プロツクリン大会(日本サイクリング協会、県教育委員会、関東甲信越サイクリング連絡協議会主催、県サイクリング協会主管)で、省エネと健康のサイクリングの普及を図ることを目的に開催したものです。

鹿島灘随一の景勝の地、大洗から焼きものの街笠間市まで、「水と緑」の3コースを設定(Aコースは、酒沼廻り49km、Bコースは水戸偕楽園廻り49km、Cコースは阿字ヶ浦、那珂町・常北町廻り)完走をねらいとしたものです。



出発に先立ち開会式で、竹内町長より「本町で大会が催されることは喜ばしい。沿道の景色を楽しみながら元気に走って下さい」と激励し午前11時20分、コースごに出発した。

消防だより 10

屋外に出ているとき

地震になったら……

- ガス漏れに気をつける
都市ガス、プロパンガスの漏れているところや、ガス漏れで道路のアスファルトがはがれていたり、ひび割れしていたりするところからは急いで離れる。
- 橋から逃げる
橋を渡っているときは、揺れの小さいうちに逃げる。逃げきれない場合は、橋のらんかんにしっかりつかまっている。
- 山ざわでは、山津波、崖くずれに注意する。
- 海岸では、津波、高波に気をつける。



- 頭をおおう
市街地の道路にいるときは、窓ガラス、瓦などが落ちてくるので、衣服や持ち物など手近なもので頭を保護する。
- すばやく近くの広い空地やビル内に退避する。
建物の外は危険がいっぱい、広い空地にいるとき以外は、建物の中に逃げこんだ方が安全。
- 狭い道路、塀ざわ、崖、川べりには近づかない。
特にブロック塀やレンガ塀はくずれやすいので近づかないように。
- 倒れた電柱、切れた電線には絶対さわらない。

大杉神社

アンバサンとは、大和国三輪山のヤマトオオモノヌシクシミカタマの命を分霊した阿波の大杉神社のことである。

今から千二百年前、栃木県の日光山を開いた上人が、霞ヶ浦を航行中、暴風雨にあった。上人が一心不乱に合掌して念仏すると、神の声とともに天空の一部が明るくなり、五色の光が船をつつんだ。五色の光が雲になって流れる中を、船は滑るように進み、阿波の岸辺の大きな杉の木のある所に無事に着いた。上人は、この大杉を航海安全の目じるしにしようとして、信仰していた三輪山の神を祭って、大杉大明神を創建した。

これ以後、大杉大明神は、航海の守護神として、各地の海や湖として河川など水上交通の要地に分霊されることになった。県内だけでも一八〇の分社があり、当町では大洗磯前神社や成田町の神明宮に境内社として建てられた。その社から海岸に、祭りのために神を呼ぶ、神降ろしが、アンバサンなのであった。

アンバは天狗

古い時代、日本の各地に、ホウソウといわれる天然痘の大流行が何回あった。七三七年に、貴族の中の貴族といわれた藤原武智麻呂が他界したのも、この病気だった。

源平合戦のとき、大杉大明神は常陸坊海存となって現れ、義経に協力して壇の浦までかけた。文治五年(一一八九)義経が衣川で他界したあと、海存は清悦大導師となって阿波に帰ってきた。

そのときも、関東地方には天然痘が大流行し、近くの村々では住民が半分になってしまった。阿波でも病人は出たが、法師の加持祈禱によって、重症にならず、死亡者もなかった。それを知った他村の人びとが、法師に祈禱を依頼すると、明神の縁者という赤い色をした天狗の面を借してくれた。これをもって村内をまわると、不思議なことに、重病人も全快し、一人の患者もでなくなったという。このことがあって、大杉の天狗はホウソウの神ともなり、人びとは先を争って、毎年「メントツケエ」と貸出し用面の交換に行った。

女だけの祭

明治四三年から、祝町小学校の先生たちによって編さんされた『郷土大観』に、潮祭という記事があり、「不漁連キノ時、漁夫ノ妻・母ナド、異様ナル身ナリヲシテ市中ヲ練リ歩キ、船主ノ家ニ至リテ踊等ヲナス」とある。

かつて、漁師の賃金が、漁獲高による一種の出来高払いであった時代、漁獲の少ないときが近づけば、船主からのわけ前が少なくなつた。そのため、当然のように生活は苦しくなる。賃金値上げを主張すれば、角が立つ。それを女だけが、祭りとして訴えたのである。そのときの異様な身なりとは、大津港の女のアンバサンから想像すると、赤いハチマキとサラシを胸までまいた胴巻・白のパンツというミニコンを担ぐ男の支度だった。その踊りの行列は、杉の木にしめ縄をはり、天狗の面を縛りつけたものを中心に、「阿波サマ大漁」の太旗を立てて、船主たちの家をまわるものだった。船主の家では、神にたいする奉納としていくらかの金銭を出すことが多く、それを出さない、なかなかつぎの家に移らなかつたという。

このように、当町内の女のアンバサンは、潮祭といい、豊漁の神・景気直しの神であった。

